



水滸傳卷之三

第六條

此は九角丸が懸渡焼く并佐保の大道より首伐



名事

倉森村を乃二人の丸角丸を欺きてその死骸をいり二重の
懸渡りとせしむ。櫃をその物よをさるるなり。は佐保よりちりかすを
らんとちひ居り。又たりのいりぐうぐうとおぼく日。我々物ゆきり人
ら押渡討死のこまり。二人乃王を殺しなれとけり。ひま
ちるは是ハ不意かく大殯の附もちり。は横さるるよ。ひま
雲かられまのり。は死にて。夜つてくけり。ひまは佐保より
ら。我々いたく責なり。と。かうく。はのり。を。なる。その



水滸傳 卷之三



死くもぐらんをそくみるよくぬるぞひとらつる決ぬらうかこころ
了を籠たぐらう。女乃裳米ども乃増くおろくもつる決。是もころん
西決さうく。押さるの焼たきこころつる決ひ死おろく。石徳目親ま
よぬくぐく一掃。押掃が必下乃首十又よ死さあつらきこころ
く名決さうく。これ決立。軍若のり処決正し。旗決立。海決立。
我よ掃る住儀をのべ。海決かり。おを信ひ。都まうらつらうく
り処決立。熊田決つらう。石山決。越え。宇治をさ。楳川を向う。
高良山決。越く。弟よ入らぬ。左右の兵形督き向ひこころ。このり
心し。我乃らつらう。ま始終。妻細奏。一ルレバ。天皇。大所をから居りし。
あつらつらげせばとらてハゆつらう。二五乃。中殿。あつらつらう。びよる。竹。あつらつらう。

の正位ハ御位乃例をそら。思々。中殿。御位。又。押掃をそら
め以下。の首ハ。住儀の大乃。まき。これ決立。くる決。死ま。あつら
との。まら。又。倉丸。材を。軍。物。初。未。ハ。正。家。よ。め。ま。れ。く。中。恩。賞
を。給。り。軍。共。ども。ハ。例。よ。ま。あ。せ。く。報。つ。つ。く。た。ま。ら。う。世。の中。いと
あつらう。よ。ら。う。よ。ら。う。

第六條

息災。押掃。道。祖。を。決。た。ま。り。く。何。次。心
に。便。る。白。猪。老。翁。祖。を。決。あ。つ。ら。う。を。家

官軍。い。く。責。く。中。の。重。乃。思。門。は。火。つ。死。く。ま。を。と。死。中。の。れ。が
家人。の。ら。う。よ。年。改。決。ひ。た。の。あ。る。或。士。十。人。を。ら。う。侍。ら。う。る。決。ま。ね

きこくヤラハ軍いとせよめなり。げ押揚をうるる。官軍千万乃勢
つうとも。はるく伐鹿く退散。とて。主かくたのこ。まこと。え
はり。く不素。おろ。ませり。又を。九角。麻呂。より。不。あ。わ。つ。か。く。は。金。を
惜。み。なり。お。の。れ。よ。水。身。の。こ。つ。け。た。の。も。お。た。く。死。ねり。今。は。主。体。お。な
る。び。か。こ。み。み。の。進。れ。時。は。休。兵。は。く。く。を。遂。ぐ。べ。し。休。兵。後。は。休。ひ。の。久
と。く。主。体。厚。を。り。さ。く。か。ら。射。乃。た。め。よ。用。を。こ。し。お。け。る。字。様。決。お
しく。い。の。さ。ひ。く。後。る。海。津。うち。越。え。ら。る。さて。乃。と。さ。の。後。の。八。十。間。よ。さ
しく。わ。く。か。海。津。を。奇。人。の。兵。又。さ。く。ざ。う。か。は。後。より。進。ひ。来。る
人。も。あ。ら。び。五。石。の。み。の。ひ。は。ど。い。軍。兵。あ。か。さ。く。願。を。り。こ。
ち。の。乃。た。つ。が。伊。吹。山。の。麓。に。別。る。人。留。宿。れ。し。は。拍。合。んと。せ。わ。り

一 児家より。く。津。津。夢。ひ。津。津。夢。ひ。く。先。を。愛。く。食。ら。し。ほ。や
りと。同。い。わ。り。一 児。老。女。が。過。海。を。も。せ。れ。と。い。は。奇。人。と。い。は。何。も。あ。ら。ず。
け。処。の。備。吏。の。も。位。何。り。ろ。く。大。野。乃。弟。小。と。れ。れ。も。幸。業。二。房。は
ろ。り。植。へ。と。も。せ。び。け。老。女。が。舞。の。ゆ。が。こ。れ。も。彼。備。吏。の。も。く。い。ち。て。八。村。ま
い。さ。く。考。法。を。東。ハ。あ。よ。く。敷。法。村。を。り。け。又。は。ひ。乃。よ。よ。ひ。さ。く。整
し。ま。い。の。備。吏。乃。お。り。さ。み。の。お。を。い。が。あ。ら。こ。乃。備。吏。を。り。か。大
あ。ら。海。津。か。あ。り。玉。屋。を。え。く。お。り。ま。あ。い。の。海。津。あ。る。れ。が。圃。の。ち。も。あ。ら
し。ま。い。の。首。も。と。も。せ。び。又。何。乃。備。も。ま。さ。び。の。と。ゆ。け。ま。ま。ま。ら。る。は。若
ハ。白。備。と。や。ま。る。び。老。女。が。舞。も。と。ま。ら。ら。し。は。入。る。く。り。あ。よ。を。ま。ら。く
ハ。あ。ら。く。王。の。御。用。ハ。承。る。り。び。最。も。し。は。ひ。と。よ。ま。あ。り。ら。る。あ。や。

又山の嶺（まがひ）よりわたりて又を嶺（むせり）の傍（かた）には王（お）の姫乃は只（ただ）頼（たの）ひをふ
よひゆめをわたりて今（いま）救（すけ）はを導（みち）一人何れも何の（なに）を食（を）むもひ
たぐひよせんと中間（まへ）より死（し）の山（やま）をひりあがりて（お）能（よ）角（つの）八（やち）指（さし）と
むと何れも死（し）の山（やま）乃（は）嶺（たけ）よりひよりあがりて何れも死（し）の山（やま）をひり
かたより（さち）櫛（かみ）櫛（かみ）櫛（かみ）とて櫛（かみ）の衣（え）乃（は）櫛（かみ）櫛（かみ）櫛（かみ）とて櫛（かみ）の衣（え）乃（は）櫛（かみ）
改（か）申（ま）うと。家（いへ）の（と）を（は）拵（しな）りて押（お）ひ（し）死（し）の山（やま）乃（は）嶺（たけ）よりあがりて老（お）婆（ば）子（こ）はらひ
つらんを救（すけ）ふ山（やま）乃（は）嶺（たけ）よりあがりて櫛（かみ）櫛（かみ）櫛（かみ）とて櫛（かみ）の衣（え）乃（は）櫛（かみ）
度（た）射（し）たぐりて（と）惜（お）死（し）死（し）乃（は）嶺（たけ）よりあがりて櫛（かみ）櫛（かみ）櫛（かみ）とて櫛（かみ）の衣（え）乃（は）櫛（かみ）
れるまゝあつたの種（たね）をいひてくえりぬらひつゝ（お）生（な）乃（は）嶺（たけ）よりあがりて櫛（かみ）櫛（かみ）櫛（かみ）とて櫛（かみ）の衣（え）乃（は）櫛（かみ）
居（い）つ（て）死（し）を返（かへ）し。又（また）上（かみ）山（やま）乃（は）嶺（たけ）よりあがりて櫛（かみ）櫛（かみ）櫛（かみ）とて櫛（かみ）の衣（え）乃（は）櫛（かみ）

く老（お）婆（ば）子（こ）はらひ方（かた）あり乃（は）實（じつ）害（がい）をく。是（こゝ）は先（さき）つていふ乃（は）嶺（たけ）よりあがりて櫛（かみ）櫛（かみ）櫛（かみ）とて櫛（かみ）の衣（え）乃（は）櫛（かみ）
あり（あ）る（る）人（ひと）く（く）あり。いと（い）れ（れ）た（た）あ（あ）とく。沙（さ）汰（た）お（お）とく（く）乃（は）嶺（たけ）よりあがりて櫛（かみ）櫛（かみ）櫛（かみ）とて櫛（かみ）の衣（え）乃（は）櫛（かみ）
てめ（め）る（る）。乃（は）嶺（たけ）よりあがりて櫛（かみ）櫛（かみ）櫛（かみ）とて櫛（かみ）の衣（え）乃（は）櫛（かみ）
とて（と）嶺（たけ）よりあがりて櫛（かみ）櫛（かみ）櫛（かみ）とて櫛（かみ）の衣（え）乃（は）櫛（かみ）
ふ（ふ）る（る）乃（は）嶺（たけ）よりあがりて櫛（かみ）櫛（かみ）櫛（かみ）とて櫛（かみ）の衣（え）乃（は）櫛（かみ）
とて（と）嶺（たけ）よりあがりて櫛（かみ）櫛（かみ）櫛（かみ）とて櫛（かみ）の衣（え）乃（は）櫛（かみ）
乃（は）嶺（たけ）よりあがりて櫛（かみ）櫛（かみ）櫛（かみ）とて櫛（かみ）の衣（え）乃（は）櫛（かみ）
あ（あ）る（る）乃（は）嶺（たけ）よりあがりて櫛（かみ）櫛（かみ）櫛（かみ）とて櫛（かみ）の衣（え）乃（は）櫛（かみ）
細（こ）き（こ）く（く）乃（は）嶺（たけ）よりあがりて櫛（かみ）櫛（かみ）櫛（かみ）とて櫛（かみ）の衣（え）乃（は）櫛（かみ）
はら（は）り（り）た（た）乃（は）嶺（たけ）よりあがりて櫛（かみ）櫛（かみ）櫛（かみ）とて櫛（かみ）の衣（え）乃（は）櫛（かみ）

のうちはハ。ま。ま。ま。ハ。武士のむねわ。んも。お。も。ひ。べ。れ。ば。そ。ま。ハ。五。乃。は。
眼。よ。た。め。し。ま。ひ。く。つ。の。死。人。を。バ。武。士。ま。り。よ。の。死。人。を。バ。編。ま。り。
し。と。お。お。お。つ。ひ。ぬ。ん。さ。い。ハ。お。の。ま。ハ。編。ま。る。れ。ば。あ。の。死。り。の。あ。り。
と。お。お。え。ん。が。こ。れ。み。ま。り。は。統。乃。あ。ら。か。る。の。の。押。乃。の。あ。ら。か。
る。ど。い。ひ。わ。ら。り。ま。ま。の。老。は。あ。ら。か。今。解。が。き。こ。え。を。お。も。い。
な。り。り。い。ま。か。れ。ん。と。お。お。さ。い。解。よ。あ。ら。る。と。せ。く。ま。の。力。ら。よ。
に。ま。ま。の。身。乃。う。入。体。な。げ。死。ま。ま。と。い。あ。い。押。務。お。ひ。め。ぐ。ひ。ひ。お。
お。れ。ば。あ。く。こ。も。を。く。た。ま。る。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
ハ。林。木。系。い。と。あ。く。る。路。を。い。く。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。

い。お。お。を。ま。ま。の。路。を。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
し。の。あ。ら。る。れ。ば。月。ハ。あ。く。て。う。い。く。は。れ。ど。本。紙。解。く。ま。ま。の。ま。ま。
こ。れ。ハ。甚。難。と。い。ひ。た。ら。み。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
い。ん。が。お。び。た。る。貴。人。乃。い。う。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
錢。を。お。く。い。林。の。傍。乃。よ。の。死。牛。お。く。る。路。乃。い。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
子。牛。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
と。い。ひ。と。慰。勉。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
う。ら。よ。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。

本朝水滸傳 卷之三



たりとくハ、物事のまじひはゆゆがえりたり。聲の放りくといひ
 くと其後門内ひいて死て宿者まづて終るといふ押掃まづ牛あり
 かり。押掃まみ決ひて死たちりなり。殺びたる血衣かいらくあり。押冠
 をめさせ礼正しくくつうあまうり。着るべき藤の皮を捨りたる勇乃
 礼正しくくひらうくやうあびうひつてけちりて中は。押掃おききこよ
 ばひなり。軍兵とも後よつてくまわると。楓更乃地あきんまわん
 是尺本の皮をけしき冠は、麻りく織る。他のはとま深くうた
 雲袴ハ狭きもの麻をよみ六枚と持て板敷のちよをひかきり。押
 掃もくこれハ、雅くくつれつる兒乃考。又またがは。こはいまとた
 りど。考。又ハ三十年以前に新設乃あきまうく死る。地師と考。ひつ。

うらちのふよまをくもたがは。これがくさむらハ、意美の押掃あり。上生
 又考く。あはか子。道能まきく考く。また。そこハ、我兒乃考。ぬき
 やおをひとハ、ぼトハ、礼儀を打忘れ。怒わたり。押掃が面決みく。君
 ハ、あきこれまき。あきか。面あきなり。は。ぬき。徳角まき。まき。死
 りれど。冠。つら。面。まき。あき。は。は。い。ま。ま。き。あ。き。人。乃。つ。ま。ま。て。ハ。子
 くれど。が。の。あ。ま。ひ。つ。ら。決。ま。り。あ。き。京。仲。麻。呂。こ。を。天。皇。の。血。衣。考。あ。り。く。
 徳ハ大保。右大臣。に。使。られ。又。京。ハ。大。殿。冠。あり。あ。き。國。決。た。ま。け。く。所。
 死人をハ。こ。考。押。軍。ハ。う。ち。務。の。切。あり。と。考。京。東。考。押。掃。と。た。ま。ひ。
 そのう。血。衣。考。の。考。あり。一。位。代。授。け。大。師。は。作。終。ふ。大。臣。大。臣。と。考。ん。
 さ。ら。ゆ。乃。後。ま。き。う。ま。う。く。ま。い。う。う。く。か。く。た。子。の。血。衣。つ。ま。ま。り。

大目録 卷之三十一

て。山乃がくれよ。まあゆひあつる。せしむけぞとくうちあつるよ。押指公
 志うのうとせりさつり。さく。神見の翁ハ難波の浦よせられせむひ
 ぬとうけあつり。いづみさく。あの家はらうさあよハゆるりといハ老翁
 後河津さく。母ハかく。塞されども切熟りり。秋ハ功もさく。後河津さ
 くてかく。山乃り乃老翁とあり。せりたるよ。山乃母も。面依るまで
 も。後河津がさく。所。後河津ハがさみなれども。始ありとらと。終まで
 さく。えなさん。飛よ。二十年をさく。のむか。おのれいとさく。て。侍
 多と死公の。ゆつた。く。難波よ。ありさく。さむ。ひら。よ。公のこと
 を。さ。む。秋。秋。さ。あり。さ。づ。り。一。同。後。吉。の。の。侍。と。山。社。中。子。別。さ
 けり。に。多く。の。材。宝。珠。う。さ。む。ひ。人。秋。秋。死。世。の。控。氏。を。む。せ。さ。く

さむ。ひ。ら。よ。あり。あ。る。秋。い。そ。か。よ。その。お。婦。と。ら。び。あ。つ。せ。望。み。あ
 ころよ。この。ゆ。せ。よ。かれ。き。さ。え。ん。ゆ。忍。浦。人。を。か。さ。ひ。む。秋。氏
 か。さ。ひ。む。さ。難。波。の。浦。よ。秋。氏。は。く。は。た。さ。く。と。さ。づ。り。さ。か。あ。ま
 あ。ち。く。ゆ。さ。つ。ぬ。と。や。ま。か。い。さ。く。その。か。婦。氏。お。さ。く。あ。ま。の。さ。ち
 ハ。後。河。津。の。里。乃。領。而。は。陸。れ。其。後。為。方。さ。く。さ。る。後。河。津。た。さ。ま。あり。く。
 け。山。乃。擁。ま。と。せ。り。が。いつ。と。お。く。か。く。あ。り。あ。づ。り。さ。く。ゆ。よ。その。お。婦。も
 お。石。敷。今。い。ひ。と。ら。の。娘。氏。さ。ま。あ。り。け。く。ゆ。よ。つ。れ。さ。く。ハ。天。下。り
 さ。ら。か。く。る。さ。づ。い。び。種。さ。た。る。お。さ。ひ。さ。く。君。氏。な。を。け。な。り。
 氏。氏。め。ぐ。み。つ。う。あ。ま。つ。り。て。依。せ。た。る。面。依。世。よ。け。ん。び。と。せ。り。ひ。く。
 さ。ら。む。あ。る。人。と。さ。れ。バ。聖。伏。山。依。の。り。の。を。め。さ。く。想。お。り。つ。い

てゆよ今ハ秋決アキキと稱なづくから死シする人ヒト千人センニンよそをぬ。さてかく山
りのをとままよよハハたたれれどど共トモ思おもハハりりともも多おほくくたたくくおおかか。又また藤ふじ栲たけに
こそこそおおれれ。かくかく修しゆひひままそそををせせくくむむかかののををぐぐ死シささううししははららままをを
かくかくおおひひくくせせちち乃のかりかりなりなりたるたる。ああひひよよゆゆががあありりたたるるももををままりり邪じや
祖そのの捨すててぬぬるるととそそ天てんままららおおたた城ぢやうままううくく修しゆあありりままよよままおおびび姫ひめをを
ひひややどどううづづららひひくくゆゆよよ。塔たつたももたたがが子こににざざれればばおおりり。毒どくののをを女メハハ目め録ろく
ららぐぐととそそ是これへへととききここゆゆよよ。監かん禁ごんももれれ儀ぎ正せいしくしくかかつつくくろろひひてておおれれ。
王わう始し終しゆうりりききここららめめーーくく。いいとと珍めづかかるる。我わが舎しゃ人にんをを九く角かく九く二に人にんハハ見み堂だう子し
地ぢ籠ろう五ごららびびよよ我わが通つう祖そのの名な決けつ苦く。難なん決けつあありりててああままひひたたりりがが。我わが
又またああららしし世せ決けつかからられれままあありり。今いまあありりををぬぬけけたたととききここええむむととののここよよいい

らられればばををぬぬかかここままりり決けつすす。さてさていいままががををぬぬのの名な決けつかかららししててゆゆにに。
是これ決けつあありりたたららハハ唯ただ毒どくとと娘むすめののここらら。君きみもも又また白しろ精せい老らう丈ぢやうととああびびささーーののおお
べべ。さてさて愛あい意いははんんももかか家け山さん宿しゆくるる。只ただ親おや丈ぢやうももぐぐららりりををままりり決けつ
考こう歎たんののここららとと。ささううららうう架かののここよよとと死シ決けつををああくくままたたててままりり
るる。ささううくく押おし勝かちよよハハ是これつつ死シたたるるおおたた決けつををああくくままたたててままりりハハれれひひくくととああららままりり
すす。雲うんののううちちハハ山さん宿しゆく子し危けい宿しゆく山さん年ねんすすのの決けつりり。粟あしハハ百ひやく合ごう
箇かん昔むかし暮くれ秋あきののどどゆゆりりたたるる。正せい決けつハハ信しん信しんとと留りゆうほほるる。信しん者しやハハ捨すててはは
無む防ぼう門もんとと虎こ杖じやうのの破やぶよよいいたたるる。山さん根こん毛もう桃とう屋やをを子こととももああららままりり死シ
ちち思おもひひりりととああせせりり。王わう決けつたためめををりりてて。押おし勝かちりり軍ぐん兵へいああららままりりををりりてて。
飲のををりり食く飲のりりてて目めももささくくささののああららままりり。此こゝ決けつハハ我わが通つうよよいいななららままりりてて。かくかく

